

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	甲佐町立甲佐小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	0	11	21
児童数	38	40	49	43	41	46	0	257	

II 研究の概要

1. 研究主題

自ら求め、考え、行動する、たくましい児童の育成を目指して  
～国語科・算数科におけるきめ細かな指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・国語  
本校の課題である、読解力、書く力の向上を目指して、全学年系統的に指導を進めるため。  
全学年・算数  
昨年度までの研究の実績を生かし、学年の積み重ね、つながりを大切にし、さらなる教育効果を目指すため。

(2) 年次ごとの計画

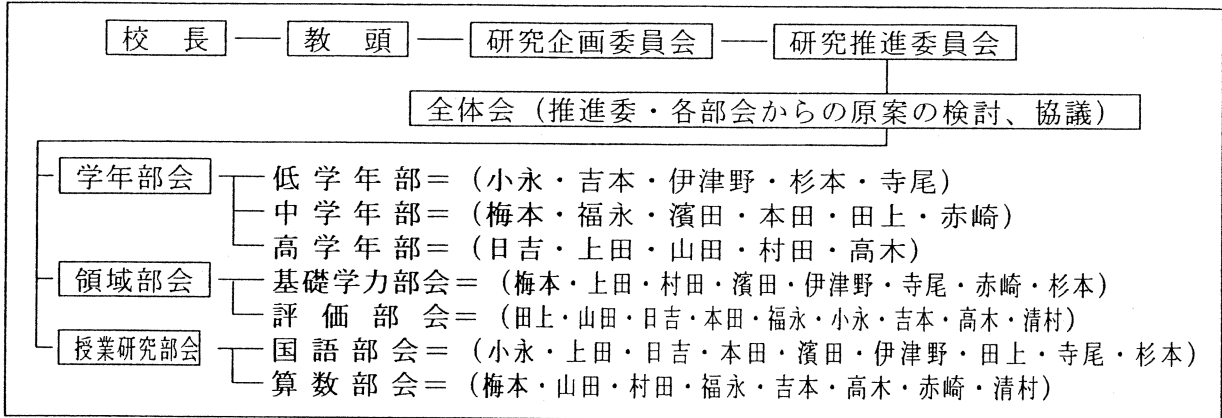
平成15年度

- テーマ  
自ら求め、考え、行動する、たくましい児童の育成を目指して  
～国語科・算数科におけるきめ細かな指導を通して～
- 研究の見通し  
国語科・算数科におけるきめ細かな指導や教育課程を工夫した取り組みにより、児童の「確かな学力」を伸ばし、「生きる力」をもった児童を育成する。
- 研究の内容・方法  
研究の仮説を下記のようにたて、研究を進めた。  
国語・算数の学習において、次の3点を工夫すれば、児童の基礎学力、基礎・基本が定着し、他教科等の学力も向上し、「生きる力」が高まらるであろう。  
① 授業における個に応じた教材開発、指導方法・指導体制の工夫改善  
② 「のびのびタイム」、朝自習、家庭学習等における個に応じた教材開発、指導方法・指導体制の工夫改善  
③ 一人一人をきめ細かに見つめ、指導に生かす評価の工夫改善

平成16年度

- テーマ  
自ら求め、考え、行動する、たくましい児童の育成を目指して  
～国語科・算数科におけるきめ細かな指導を通して～
- 研究の見通し  
平成15年度の研究成果、課題を生かし、前年度の取り組みを見直し、手だての精選を図る。さらに有効な手だてを探り、取り組んでいく。
- 研究の内容・方法  
「書くこと」にシフトしていた国語の研究領域を広げ、より総合的な国語力を伸ばすことをねらって取り組む。また、指導体制がさらに整えば、教科担任制の幅を広げて取り組んだり、発展的な学習問題、評価問題の開発に取り組む。

(3) 研究推進体制

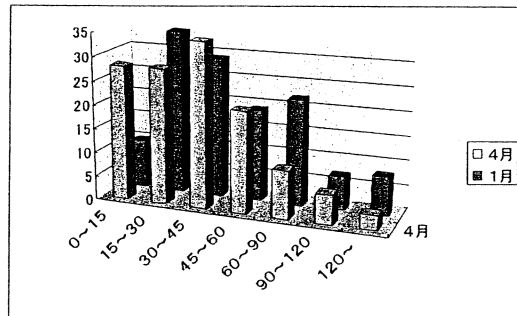


III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

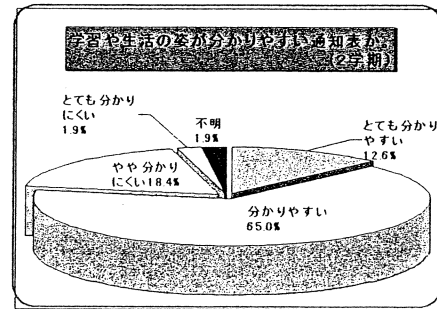
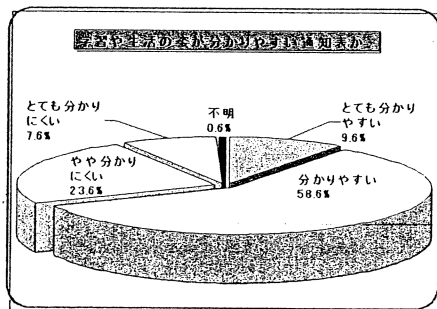
- 学力テスト、ゆうチャレンジなどの分析結果をもとに、本校の課題を明らかにし、TT及び少人数授業の工夫改善を行ったことで、児童は、書くことや算数の本質的な楽しさにふれ、確かな学力を身に付けつつある。
- 授業の中で、考える時間を確保したり、互いに意見を交流するなどの時間を保障したことで、教師だけでなく、児童自身も正確な答えを求めることばかりでなく、その過程の考え方の大切さと、その楽しさを感じてきている。
- 児童自身に、自分に合ったコースを選ぶ力がついてきて、自主的に学ぶことで、勉強を「大切なもの」と感じながら、「好きではない」と答えていた児童が、「勉強が好きだ」と徐々に思い始めている。
- 「のびのびタイム」の時間を設定し、系統的・継続的に実施することで、児童は、国語や算数の補充学習、発展的学習を楽しみながら行っている。
- 朝自習の時間に基礎・基本の定着を図り、家庭と連携しながら家庭学習を進めることで、児童自らが時間を設定して学習をするようになり、家庭学習の時間が伸びてきた。

(右図：休日の学習時間の変容)



- 「単元観点別評価規準表」、「観点別評価方法マニュアル」「学期通知表」からなる“三位一体”の教科等評価処理システムを開発することで、全職員が共通の「目標準拠評価」ができるようになり、一人一人の学習に対してより深く見つめるようになった。児童の学習記録がデジタル一本化され業務の省力化も漸次進むとともに、教師間の情報の共有化や累積化も進んだ。保護者との評価に関する相互の情報提供により、評価方法等が改善されたり、保護者の学力向上や評価に対する関心を高めることもできつつある。

(下図：保護者の通知表に対するアンケート結果の変容)



## 2. 今後の課題

- 少人数指導において、各クラスの連携をとり、教師の指導力を向上させ、領域ごとの格差、単元ごとの格差をなくすこと。
- 実態をしっかりとふまえた補充指導、発展的学習の教材開発を進めていくこと。
- 確かな学力の定着を見据えた「のびのびタイム」の内容の充実を図ること。
- 学期通知表から個人カルテへの転用をし、個に応じた指導に生かすこと。
- 「評価基準」の精度を向上させ、それに基づく授業づくりの日常化を図ること。
- 「学期通知表」の評価項目を学期始めに児童、保護者へ提示し、児童が見通しをもって学習に取り組むようにするとともに、保護者の学校教育への関心を高めること。
- 児童の「メタ認知力」を高める学校総体としての取組を強化すること。

## IV 学力等把握のための学校としての取組

- (1) 児童に対するアンケートによる評価  
4月と1月に全児童を対象としたアンケートを実施し、アンケート結果を比較することで、児童の意識や学び方、行動の変容を考察する。
- (2) 昨年度と本年度の学力テスト及び「ゆうチャレンジ」の結果を比較することで、児童の変容を考察する。
- (3) 児童の活動の様子・記録等からの評価  
児童の各教科やあゆっ子タイムにおける活動の様子や記録等を残していき、そこから児童の変容や伸び、課題等を考察する。

## V フロントィアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年11月14日（金）  
甲佐小学校において、公開授業研究会を開催。これは、上益城郡10年経験者研修を兼ね、甲佐町内の小学校、中学校、高等学校のほとんどの教員を集めて行った。参加者は100名を超え、国語の研究授業、研究概要説明、質疑応答などを行い、活発な意見交換がなされた。
- 本校が開発した通知表のシステムを近隣校が導入した。
- 来年度は、学校ホームページを開設し、その中で広く研究成果を広めていきたい。
- 来年度は、研究発表会を開催し、研究紀要を作成するとともに、授業や授業研究会、研究概要説明を通して研究成果を広めていきたい。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】        15年度からの新規校        14年度からの継続校
- 【学校規模】              6学級以下              7～12学級  
                            13～18学級          19～24学級  
                            25学級以上
- 【指導体制】              少人数指導          T・Tによる指導  
                            一部教科担任制      その他
- 【研究教科】              国語        社会        算数        理科  
                            生活        音楽        図画工作      家庭  
                            体育        その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有        無